

り可汗及び其の國相と相識り^(二二二)、好く其の意を得たりしことが、與りて力ありしなるべきを思はしむるのみ、かくて此の年十一月^(二二二)咸安公主は長安を發して回鶻に向ひしが、翌貞元五年十二月^(二二三)には早くも可汗死したれば、此の和親は此の後兩國の間に、大なる結果を齎す無くして終りしが如し。

當代北方に於る事情は又之を詳かにする能はざれど、只だ北庭地方と回鶻との關係に至りては、稍之を尋ね得ざるに非るが如し、唐書回鶻傳の記載に據れば、

初安西北庭、自天寶末失關隴、朝貢道隔、伊西北庭節度使李元忠、四鎮節度留後郭昕、數遣使奉表、皆不至、貞元二年、元忠等所遣、假道回鶻、乃得至長安、帝進元忠、爲北庭大都護、昕爲安西大都護、自是道雖通、然虜求取無涖

と曰へり、されど此の記事には誤謬の存するものありて、直に據るべきに非ず、何となれば、天寶の末以來安西北庭等の地方は唐と阻隔して通ずる能はず、貞元二年（七八六年）に至りて元忠等の使が回鶻を経て初めて長安に達するを得たりと記せども、舊唐書本紀及び兩唐書郭昕傳^(二二四)、新唐書地理志等によれば、李元忠及び郭昕等の遣しし使の長安に至りしは建中二年（七八一年）の事にして、貞元二年には非ず、即ち舊書郭昕傳に

肅宗末、爲四鎮留後、自關隴陷蕃、爲虜所隔、……昕阻隔十五年、建中二年、與伊西北庭節度使李元忠、俱遣〔使〕于朝、德宗嘉之、詔曰、四鎮二庭統西夏五十七蕃、十姓部落、國朝已來、相次率職、自關隴失守、東西阻絕、忠義之徒、泣血相守、慎固封略、奉尊朝法、皆侯伯守將交修共理之所致也云々

と記し、新唐書郭昕傳も亦殆ど全く之に従へり、されば安西北庭地方の唐と阻絶せしは、建中二年以前十五ヶ年の